7　内舎人の約束　　　　　　　　　　　　動詞④　カ変・サ変

むかし、内舎人なりける人、おほうわの御幣使に、大和の国に下りけり。井手とアいふわたりに、Ａ清げなる人の家より、女どもわらはべ出で来て、この行く人をイ見る。きたなげなき女、いとをかしげなる子を抱きて、門のもとに立てり。この児の顔のいとをかしげなりければ、目をウとどめて、「その子、こち率て来」といひければ、この女寄り来たり。Ｂ近くて見るに、いとをかしげなりければ、「ゆめ、こと男したまふな。われにあひたまへ。おほきになりたまはむほどに参り来む」と言ひて、「これを形見にしエたまへ」とて、帯を解きて取らせけり。さて、この子のしたりける帯を解きて取りて、持たりける文に引き結ひてオもたせて往ぬ。これをこの子はカ忘れず思ひ持たりけり。男ははやう忘れにけり。

【本文チェック】

①　ア～カの動詞の、活用の種類・文中での活用形を書きなさい。

　ア（　　　行　　　　　活用　　　　形）

　イ（　　　行　　　　　活用　　　　形）

　ウ（　　　行　　　　　活用　　　　形）

　エ（　　　行　　　　　活用　　　　形）

　オ（　　　行　　　　　活用　　　　形）

　カ（　　　行　　　　　活用　　　　形）

②□Ａ・Ｂの活用語を基本形（終止形）に直して書きなさい。

　Ａ（　　　　　　）　　Ｂ（　　　　　　）

③傍線部と同じ人物を表す語句を四か所探して、線を引きなさい。

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の読みを、現代仮名遣いで答えよ。

１　内舎人〔１〕（　　　　　　　　　）

２　大和〔１〕（　　　　　　　　　　）

３　児〔３〕（　　　　　　）

問２　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。

１　わらはべ〔２〕　　　①（　　　　　　　　）

　　　　　　　　　　　　②子どもの召し使い

２　をかしげなり〔３〕　①趣のある様子だ

　　　　　　　　　　　　②（　　　　　　　　　　　）

３　率る〔４〕　　　　　（　　　　　　　　　）

問３　次の傍線部の意味として、現代語訳に入る最も適当なものを選べ。

１　ここはけしきある所なめり。ゆめぬな。（更級日記）

　　ここは怪しげな所のようだ。（　　　）寝るな。

　ア　とりあえず　　イ　決して

　ウ　果たして　　　エ　なるべく

　（　　　）

２　を持ちてでて見るに、またそのが影の映りたりけるを見て、早う、にはあらで、太刀抜きたる者にこそありけれと思ひて、（今昔物語集）

　　太刀を持って出て見ると、またその自分の影が（壁に）映ったのを見て、（　　　）、子どもではなく、太刀を抜いた者であったよと思って、

　ア　早く　　　イ　どうして

　ウ　なんと　　エ　やはり

　（　　　）

【文法力 ✚】

問４　次の活用表の空欄を埋めよ。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 論ず | す | 来 | | 基本形 |
|  |  |  | | 語幹 |
|  |  |  | | 未然形 |
|  |  |  | | 連用形 |
|  |  |  | | 終止形 |
|  |  |  | | 連体形 |
|  |  |  | | 已然形 |
|  |  |  |  | 命令形 |
| 行変格活用 | 行変格活用 | 行変格活用 | | 活用の行・種類 |

問５　次の傍線部の動詞の活用の種類と、文中での活用形を答えよ。

１　人々、絶えずひに。（土佐日記）

　　　活用の種類（　　　　　　活用）　活用形（　　　　　　　　）

２　夢の心地もせず、（源氏物語）

　　　活用の種類（　　　　　　活用）　活用形（　　　　　　　　）

３　百人ばかり天人具して、のぼりぬ。（竹取物語）

　　　活用の種類（　　　　　　活用）　活用形（　　　　　　　　）

【探究】

問６　男は、出かけた先で少女を見初め、結婚の約束をしたが、その約束をすっかり忘れてしまった。あなたはこの男をどのような性格だと思うか。

ア　色好みの風流人である。

イ　計画性があり、計算高い。

ウ　軽率で、不誠実である。

　（理由　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

【解答】

【本文チェック】

①　ア＝ハ・四段・連体　イ＝マ・上一段・終止　ウ＝マ・下二段・連用

　　エ＝ハ・四段・命令　オ＝タ・四段・未然　　カ＝ラ・下二段・未然

②　Ａ＝清げなり　Ｂ＝近し

③　（この）児〔３〕・（その）子〔４〕・（この）子〔７・８〕

問１　１＝うどねり　２＝やまと　３＝ちご

問２　１＝子ども　２＝かわいらしい　３＝連れる

問３　１＝イ　２＝ウ

問４　（来）　（来）｜こ｜き｜く｜くる｜くれ｜こ・こよ｜カ（行変格活用）

　　　（す）　（す）｜ せ ｜ し ｜ す ｜ する ｜ すれ ｜ せよ ｜ サ（行変格活用）

　　　（論ず）　論 ｜ ぜ ｜ じ ｜ ず ｜ ずる ｜ ずれ ｜ ぜよ ｜ サ（行変格活用）

問５　１＝カ行変格・終止形　２＝サ行変格・未然形　３＝サ行変格・連用形

問６　（例）ア　平安時代など古代においては、美しい女性に魅力を感じることも風流さのあらわれとされていたから。

　　観点　自分の考えなのでどの選択肢を選んでも構わないが、選択肢の文言につながる理由をきちんと述べること。（例）のように古典常識なども根拠にするとよい。

【現代語訳】

問３　１　ここは怪しげな所のようだ。決して寝るな。

　　　２　太刀を持って出て見ると、またその自分の影が（壁に）映ったのを見て、なんと、子どもではなく、太刀を抜いた者であったよと思って、

問５　１　人々が、絶えず訪れて来る。

　　　２　夢のような感じもしないくらい、

　　　３　百人ほどの天人を連れて、（天に）昇ってしまった。